

■池田菊苗 純粋化学の開祖。”旨味”の物質を特定して世界的調味料”味の素”。夏目漱石と絶妙の親交する幅広さ。

いけだきくなえ

禁門の変・・・1864＝ 京都上長者町で、加賀藩士出身から薩摩藩京都留守居役の養子となった池田春苗の次男に生まれる。

薩長同盟・・・1866＝ 2歳：母と死別。兄が加賀藩士を相続したため、長子同様に育てられ、

明治維新・・・1868＝ 4歳：父に連れられ、島津久光夫人屋敷に行き、御前で謡を披露、

父は羽振り良くその屋敷を入手するほどで、後妻を迎え、

学問のすすめ1872＝ 8歳：異母弟夏苗が誕生したが、

明治6年政変 1873＝ 9歳：政変で、西郷に従って、父が退官し、事業も失敗して不如意となるなか、人に連れられて上京、英語を学んで、

初の民間工場1875＝11歳：京都に戻り、女性宣教師について英語を続ける一方、草場船山の塾で漢学を学び、

三つの内乱・1876＝12歳：京都府立第一中学に入学したが、

西南戦争・・・1877＝13歳：中退して大阪に転居。\_近くの大阪造幣局技師村橋次郎と懇意となり、

\_お雇外人から化学を学ぶ機会を得て熱中、進学を希望するも、家計窮乏で叶わず、

明治14年政変1881＝17歳：家人が花見で留守中、布団を売って旅費をつくり、\_家出して上京、

新体詩抄・・・1882＝18歳：成績3番で、東京大学予備門へ入学、校長杉浦重剛のはからいで、奨学金を支給されて通学でき、さらに、英語講義のアルバイトなどして、弟夏苗を呼寄せ、勉強させる。

内閣発足・・・1885＝21歳：卒業し、\_東京大学理学部化学科に入学。

帝国大学始・・・1886＝22歳：帝国大学理科大学に改編となり、

この間、さらに磨かれた文学から政治までの英学の素養や漢学ほかへの深い造詣が、以後も様々な面で発揮される。

帝国憲法発布1889＝25歳：\_卒業。はえぬきで化学専攻した初の理学士となる。

帝国議会始・・・1890＝26歳：卒業論文を研究第一報として発表、

大津事件・・・1891＝27歳：(東京)高等師範学校教授に任ぜられる。

大本教・・・1892＝28歳：旧加賀藩士の娘で恩師桜井錠二夫人の妹でもあった岡田貞子と結婚。

日清戦争始・・・1894＝30歳：反応速度学の先駆的業績たる研究第二報を出すと、以後10年、毎年のように発表。

白馬会・・・1896＝32歳：配置換えとなり、\_母校帝国大学理科大学化学科助教授に就任。

Bushidou・・・1899＝35歳：重要な研究第八報発表。\_ドイツ留学を命ぜられ、ライブチヒのオストヴァルト研に赴く。

ビア国産化・・・1900＝36歳：

田中正造直訴1901＝37歳：\*王立研究協会を訪問すべくロンドンに渡り、同宿夏目漱石と意気投合して、帰国。教授に昇任。

教科書疑獄・・・1902＝38歳：\_理学博士。

漱石が「文学論」を書いて確信を持つ契機となり、その後の傑作が生まれる素地をつくる。

日露戦争終・・・1905＝41歳：オストヴァルトの著書を補訳して、「近世無機化学」を出版。

満鉄発足・・・1906＝42歳：弟子と共著で特色ある「化学教科書」も出版。この年、恩師オストヴァルトが若くして引退、

韓国反日暴動1907＝43歳：\*漱石が学界を去って朝日新聞に入社したこと、ドイツで親交した女性アリーの来日に喚起されてか、かねて注目していた旨味の研究を再開するや、その本体がグルタミン酸イオンであることを発見し、

アライ創刊・・・1908＝44歳：\_特許を申請して第14805号認可されると、来訪した鈴木三郎助による企業化を認め、

伊藤博文暗殺1909＝45歳：\*味の素の販売開始となる。鈴木の販売努力で、次第に売れ行きが増大、

大逆事件判決1911＝47歳：この間、アミノ酸混合物の電気泳動による分割法を考案して特許権を得るも、学術誌に発表しなかったため、30年ほど後にこれを発展させたチセリウスがノーベル賞を受けることになる。

明治天皇没・・・1912＝48歳：\_「酵素の速度論的研究」も世界を先駆。

第一次大戦始1914＝50歳：川崎に新工場を建設、製法を変えたところ、異性化発生で一時重大困難に陥るも克服し、ようやく貧困から脱して、麹町区に新居を構える一方、古来の調味料業者からメディアを巻き込んだ販売妨害がなされる。

ロシア革命・・・1917＝53歳：\_財団法人理化学研究所が創立され、化学部長に就任(後、主任研究員)。

本格政党内閣1918＝54歳：

ベルリン条約・・・1919＝55歳：\_帝国学士院会員。

大暴落・・・1920＝56歳：この年、アリーゼがドイツに帰る。

原敬首相暗殺1921＝57歳：

関東大震災・・・1923＝59歳：\*恩師オストヴァルトに倣い、教授を依願退官、名誉教授の名称を受く。還暦祝いの祝儀全てを日本化学会に寄附。”味の素”特許権の期間延長が認められる。

治安維持法・・・1925＝61歳：米・英両国経由でドイツへ行き、ライブチヒにて研究室をもつ。

金融恐慌・・・1927＝63歳：

味の素への国際的声価も高まり、

世界恐慌・・・1929＝65歳：この年には、売上1600万円に至る。

満州事変・・・1931＝67歳：ドイツより帰国し、東京戸越に当時珍しい冷暖房完備の居を構え、自宅で研究開始。

五一五事件・・・1932＝68歳：理化学研究所主任研究員を退職し、新設の日本学術振興会の第五常置会委員長(化学関係)となる。

国際連盟脱退1933＝69歳：\_滞独中に発生した基本特許無効訴訟の成り行きを心配した対策からか、奇怪な文を発表するうち、

二二六事件・・・1936＝72歳：腸閉塞のため、\_急逝した。